

平成 27 年度第 1 回南国市行政計画審議会 議事録 < 第二部 >	
日 時	平成 27 年 4 月 28 日 (火曜日) 15 : 45 ~ 17 : 00
会 場	南国市市役所 4 階大会議室
出席者	別紙名簿参照 (委員 30 名中、28 名参加)
議 題	<p>【第二部】南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>(1) 総合戦略の概略について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の総合戦略—資料 1-1 ~ 3 ・県の総合戦略—資料 2-1 ~ 2 <p>(2) 南国市の人口について—資料 3</p> <p>(3) 今後の進め方について—資料 4、資料 5</p> <p>(4) その他</p>
配布資料	<p>《南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略の資料》</p> <p>【資料 1-1】まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」(パンフレット)</p> <p>【資料 1-2】まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」の全体像</p> <p>【資料 1-3】まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」の概要</p> <p>【資料 2-1】高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略<平成 27 年度版>の構成</p> <p>【資料 2-2】高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略<平成 27 年度版>の概要</p> <p>【資料 3】南国市の人口等資料</p> <p>【資料 4】南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針</p> <p>【資料 5】地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業</p>
会議の内容	<p>【第 2 部】「南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略」</p> <p>(会長) それでは 2 部の方に移ってまいりたいと存じます。第 2 部は「南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略」という内容でございます。これに関しても、まず、総合戦略とはどういうものか、あるいはこの南国市行政計画審議会として、どのように今後の議論を進めていくのか、について皆さんと共有するということを、今日の目的にさせていただきたいと思っております。そして時間が許せば、少しご意見もいただくということで、17 時を目安に議論を進めてまいりたいと思っております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは (1) 総合戦略の概略説明について、(2) 南国市の人口について、この 2 点について、一括して事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局) 資料 1 ~ 3 について説明</p> <p>(会長) はい、ありがとうございました。国の総合戦略の考え方で、それを受けて県が総合戦略をつくっているということを、さらに説明をさせていただきました。県の立場としては、これはどこよりも早く、この県側の総</p>

合戦略をつくられたというふうに知事もおっしゃっていました。ただし、まだ人口ビジョンの部分が見えていないので、高知県の2060年における人口の目標を何人に設定をするのか。ここは夏に向けて、議論され、そしてその数字が出てくるというような状況でございます。一方で、この審議会に求められていることは、その状況の中で南国市版の総合戦略を策定すると。これは人口ビジョンも含めてということになります。お題としては非常に難しい将来予測をしながら、さらにそれを実現するためにどうするかということまで、盛り込んでいかないといけない。非常に困難でかつ責任のある審議内容になるのではないかと思います。今、ご説明がありましたけれども、もう一つ、参考資料1というのを展望していただいているんですね。ちょっとこれについてもふれていただいでよろしいでしょうか。

(事務局) そうですね。

(会長) 参考資料1というのは、ちょうど冒頭に私がお挨拶を申し上げた時に、京都府の京丹後市が「まち・ひと・しごと創生人口ビジョンおよび総合戦略」が既に最近策定をされて、発表しているというそういう情報を、メディアを通じて知ったものですから、今日の参考資料として、要は南国市版のこれをつくるのだということで、1つの事例として、お配りをしているものでございます。ちょっとだけ注目すべき点をお話すると、さっきと繰り返しになるんですけれども、説明を受けた状態で、より理解が深まっている状況の中でお覧いただきたいのが、めくってですね、1ページ、2ページのところで、京丹後市が人口ビジョンとして7万5千人というような数字を出している点でございます。これ自体は目指すべき人口ビジョンということで7万5千人程度という数字を挙げてます。2ページ目に社人研の将来推計人口は、この自治体は2万6千人です。ということは、さっきありましたように、2万6千人に減っていくところの将来予測に対して、いやいやそんな減るようなことは許さないということで、それを3倍に押し上げていこうという意欲的な総合戦略を立ちあげた。これが京丹後市の事例でございます。当然ながら、これは計画ですので、単なる願望を書き記した夢に終わってははいけません。となれば、その根拠になる具体的なさっきの目標の1・2・3・4に相当する部分をしっかりと議論をし、盛り込んでいかないといけない。何しろKPIということで、具体的な数値目標を挙げなければいけませんので、根拠のない、単なる空論を議論することではないということで、そこに参考資料として、色々な方策を駆使して、そうするという、そういう事例が既に発表されているということもぜひ委員の皆さまには、ご理解をいただきたいと思っております。ですから、今後どうなるかではなく、どうするかと申し上げたのは、まさにこの京丹後市はどうするかを前面に出して、そして自分たちの意思表明をされている。

ここを理解しておいていただきたいという意味でございます。さて、残り30分くらいで、今後の進め方については事務局からまたご説明いただくようにしております。その時間は10分くらい残しておきたいと思うので、これからですね20分くらい時間をとりまして、総合戦略自体の、もしご理解が不十分であるということであれば、事務局を含めて、ご質問をまずいただきたいと思います。さらには、今後議論していく上で、人口ビジョンをどうするかという点についてですね、将来推計から見れば、さっき、かなり減少しているという予測があったりしましたけれども、それを受け入れるという方向性が、この審議会のメンバーの総意になるのか、それとも、もっと我々はこうするんだと、力強い意思表示をする方向で、全体の人口ビジョンを考えるのか、こういった大きなスタンスについても、審議会の委員の皆さまからご意見をまずはたまわりたいと思っております。もしご質問ご意見おありでしたら、どんどん挙手をお願いします。

(委員) 僕も高知県に移住するにあたって、でも一番悩むところが、移住というか、若い人がこれから高知県に残っていくのもそうだと思いますが、やっぱりどうしても雇用というところだと思う。僕もすごくこれについては悩んでいて、どうしても子育てとか結婚とか考えていくと、ちゃんとした収入もないし、ちゃんとした休みもとれて、退職金とか家賃、ちゃんと定時、時間遅くならないで家に帰るとか、福祉なども含めて、総合的に考える時に、どうしてもやっぱり公務員という選択をみんなにとって、理想的なのは公務員と、みんな公務員を志望している人が大学に本当に多いです。特に文系では。でも、公務員は人数が限られているので、一般の企業でどれだけそういう魅力のある雇用を増やせるかというところが、大きな課題になると思います。そしてその上で南国市に住民を増やすというのは、まず僕なんかはどうして南国市に住み続けていきたいと、きっぱり答えられないかという、新卒で会社に入った時に、最初から一戸建てを建てられるわけではなく、集合住宅で住んでいくわけですが、南国市はあまり集合住宅がないイメージがあります。これは、今、一人暮らしで集合住宅に住んでいるんですけど、高知大学の農学部は最初の一年間の間は、朝倉キャンパスで過ごしてから、南国市のキャンパスに移ります。その時に、南国市というのは集合住宅があまりなくて、朝倉は集合住宅があるのですが、南国市はない分、家賃が高いです。多ければ安くなるが、ないので、ニーズというか需要の関係で家賃が高くなってしまふ。だとしたら、やっぱりそのへんも考えてしまうと、どこに住居を構えるかというのはとても悩ましい問題となってきます。という意味では南国市の住民、移住を増やすという面では、雇用というところと住まいも考えていったほうがいいのではないかと思います。

(会長) はい、ありがとうございます。若い世代からのご意見をいただきました。雇用と住居の問題がおそらくセットだと思います。集合住宅や家賃の問題、個別の話もありましたけれども、いかに雇用を創出するか、そしてその雇用の場に近い住居をいかに低額に提供できるかという、根本的なお話でありました。おそらく、この住居と雇用とあと安心とかがセットになっていけば、より将来を預けられるといいますか、託せるような地域になっていくというふうに思いますけれども、立派なご意見をいただきました。ありがとうございました。はい、他にはいかがでしょうか。

(委員) これから行政サイドはですね庁内で調整し、検討委員会を念頭に立ち上げるとなってますけれど、これからの地方創生という取り組みが、人口を増やす、増やしていく一番の根幹になる部分だと思います。そうした中で南国市も人口的な動態を見た時に、中山間の特に山間部なんか小学校もいくつも廃校になってきているわけですが、そうして、限界集落も、消滅している黒滝あるいは桑ノ川、あちらのほうはですね、あちらのほうに県が林業学校を立ち上げようといわれておりますが、そうした中ノ川なんかは300人くらいいたのが今は5～6人しかいない。そういう人口の流れになっているわけですが、そういうところで、国の話は県と市の徹底した助成を入れて、そしてそこにもういっぺん集落を再生するというようなことを南国市としては考えていかなければ、とてもできない。それからもう1つはこの南国市の平場の農業について、県外からも既に何十人と移転してくれている若い人が、長岡地区なんかはいるわけですが、そういう実際に現場で戦っている、そうした人たちにさらに希望を持たせるような、そして、移住者を受け入れるというような、そういうことを国や行政サイドだけでなしに、そうした人たちもひっくるめて、地方再生の、地方創生の取り組みも考えるべきではないかと思います。

(会長) はい、ありがとうございます。その集落を再生していくという発想は、多分攻めの姿勢だというふうに思います。集落が消滅していく方向が、ずっと人口動態とかこれまでの時代の推移で、見られてきましたので、今のお話は、多分それに歯止めをかけ、そしてさらに再生していくことなので、その方向を、具体的にはどうやってというのは、資金的な助成も含めてというお話でしたけれども、考えないといけないとしても、方向性としては目指すべきです。それからあとは、農業を中心とした移住者がいるというお話は大変我々にとって、将来明るい方向だと思いますけれど、そういった方々がいわば希望を持って、その農業に従事できるような環境をどういうふうに提供できるか、そこが1つポイントになるというお話でしたので、その2点については、今後、雇用の創出とか中山間の集落のあり方について議論する時にも、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

そして何よりも攻めの方向であるという、そういう基本的なスタンスをお話いただいたことに関しては、ぜひ委員として共有させていただきたいと思いました。ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

(委員) 先ほどのお話と同じような近いようなことだが、攻めのですね人口増は非常に大事だと思うんです。それで、前回も言い忘れたが、南国市は津波や地震がありますので、南海大地震がおそらく確実にあるので、その対策を含めてやらないと、非常に危ないところがありますので、浸水地域は既に高知県から発表になっておりますので、その地域と浸水しない地域とではやはり、まちづくりのあり方が違うと思うんです。浸水地域は時間がないので、避難所の確保や避難タワーは絶対に必要になるので、それと避難所を地域につくるのは危ないのではないかと思うので、やはり全体の都市計画の見直しと、やはり津波が来ない、浸水地域ではない、北部に持ってくるのが適切ではないかと思うんです。浸水地域はやはり、住居地域ではなくて、農業地域に変えていくのが、良いのではないかと。私も色々会社をやってますけど、農業の会社が今実験所のようにしているが、農業で800万円の年収をあげるかどうか、県といつも農業者会議で話しているが、あがります、800万円は。あがりますので、やはり住居を、まちづくりの住居を整えることによって、人が呼べると思う。自分が800万円あげてますので、それはできますので。ただ、やみくもに農業人口が増えても、それは地産外商だが、全部自分なんかは地産外商だが、土地の無駄がなくなる。なくなるというのはそういうことはないという人もいますが、それもわからないが。できますので、それは推し進めたほうが良いと思います。それから土地がないので、地価が高い。それをもう少し開放すれば、額的にもう少し家を建てられるという方向に持っていけるはず。制限するから地価が高い。問題を起しているんで、それを言いたいです。

(会長) はい、ありがとうございます。まず基本的に先ほどのご意見から続いて、攻めの人口増の考え方が大切ではないかという基本的な方向性について、まず、コメントをいただきました。併せて津波に対して、浸水地域と非浸水地域と。多分都市計画の見直しというのは、ゾーニングをどういうふうに考えていくかという話だと思うんですけども、その土地利用のあり方もしっかりと念頭に置いて、それによって、産業の効率性をあげていくということを提言されたという事だと思います。先ほども住居の話が出てきましたので、移住を含めて人口を増やしていくということになれば、住宅環境、あるいは雇用環境をどう整備していくか、これは当然将来の課題になってまいります。したがって、今のようなご意見もしっかりと踏まえて、さらに議論を進めていきたいと思っております。他にさらにございますでしょうか。なかなかすごく、時間的には長いスパンでの話になります

し、今日はまだ初めての内容でございますので、これから委員の皆さまには少しずつ議論を深めていただきたいというところでございますので、またお帰りになられて、こういった資料一式を読み込んでいただきたいと思います。あと、ちょっとだけ考えなければいけないところを私なりにこう感じているところをお伝えさせていただきたいのですが、先ほども申しあげましたように、これは各自治体ごとで競争になっていくのだろうと、競争というのは、コンペティションというそうです。相当特徴的な話が盛り込まれていかないと、逆にすべての34市町村が、総合戦略をがんばって立てて、KPIをかなり上方で設定されて、行動を起こしていけるので、競争がし烈になるということが予想されます。ですから、この南国市における特徴というか、強みをしっかり市民として理解をされて、どうあるべきかを考えなければ、ある意味競争に負けたり、あるいはむやみな競争に巻き込まれるということもあり得ると思います。それと今回は総合戦略としては5年の話なんですけど、ゴールとしては2060年も考える。ここから、よくマイルストーンというが、例えば、5年、5年、5年、5年でどういう世界が、この南国市としてイメージできるかということをしっかりビジョンとして、描いていかないといけないと思います。その時に2060年の世の中が一体どうなっているかということ、しっかりとらえておかないといけないと思います。実は2060年、個人的には、2060年の元旦を迎えた時、私は99歳になっている。3月にちょうど100歳を迎えるので、日本人は1億人いないといけないから、私もがんばって、生きようと思っております。田上先生にも助けていただかないといけないですけど。そのような、自分のことも考えつつ、もう一方で45年後の世界ってどうなっているのか。今2015年だが、45年時計を戻すと1970年で、万博があった時期ですよ。大きく時代は変わっているし、テクノロジーも進化して、その当時なかった職業がたくさんある。今後の45年って、考えてみると、ものすごい技術が進歩していて、多分、ウェアラブルの端末を装備している方は当たり前で、何にでもインターネット接続がされていて、多分色々な話が話題になっているが、靴はインターネット情報になっているという話もあるくらいで、全ての健康情報は多分リアルタイムで、田上先生、その当時はモニタリングされていますよね。そうなってくると、人の暮らしというのも、今の現状を念頭に置きながら、議論しても多分成立しないと思うんですね。ですから、そういう長期の技術であるとか、社会のあり方なんかも念頭に置きながら、南国市のあるべき姿を、人口ビジョン、また暮らしそのものも考えていかなければいけないということではないかと思っています。こんな話をするとなかなかゴールで描き切れないので、念頭に置いてくらいでいいと思うんですが。今の状況だけで、決してこの総合戦略というのは、

描けないのではないかという問題提起を最後にさせていただきました。何か、委員の皆さまからコメントございますか。あるいはご質問ございますでしょうか。そうしましたら、あともう一つ今後のですね、進め方について、資料4・5に基づいて、ご説明をいただいて、この第2部を閉会させていただきたいと思います。それでは今後の進め方について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局) 資料4・5について説明

(会長) はい、ありがとうございました。今後の審議会の開催日時等も含めて、今後の総合戦略の進め方について、説明をしていただきました。もうだいたいお分かりの通り、かなりスケジュールがタイトで、しかも将来にわたる極めて重要な内容をこんな短時間でやれるのでしょうか、という不安もありますけれども、まずはできるだけ色々なご意見をこの審議会を中心にいただいた上で、パブリックコメント等もいただけるような期間を設けておりますので、より広く市民の皆さまに意見公募をして、そして取り込むべきは取り込むということでやっていきたいと思います。自治体によってはこれをタウンミーティングスタイルでやるところもあるようです。今日、午前中、気仙沼市の菅原市長が、ちょうど今日東京から気仙沼に帰るというので、1時間半くらいお話をしてたんですけど、気仙沼はタウンミーティングスタイルでやると言っていました。色んなやり方で意見の集約の仕方があるようですけど、いずれにせよ、時間が限られているというのは日本全国一律です。というところで今後の進め方について、事務局からご説明を申し上げましたが、いかがでしょうか。何かご質問ございますか。よろしいですか。そうしましたら、今日多分、具体的にご意見としていただけなかった点で、もし委員の皆さまの中で、ご質問あるいは計画、それから戦略それぞれについて、もしご意見等ございましたら、事務局にお寄せいただくということでよろしいですね。それに関してはまた次回の審議会でご披露させていただくと同時にその対応についても協議をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。その他はよろしいですね。そうしましたら、もうまもなく17時になりますが、第1回目の総合戦略に関します審議会を、これを持ちまして終了させていただきたいと思います。長時間にわたりご議論いただいたこと、深くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

以上